

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.21
平成26年1月20日

しつけの3原則

よく、「しつけ」と言いますが、しつけというのは具体的に何を行えばよいのでしょうか。その一つの参考として、愛知県知多郡武豊町出身の教育哲学者、森信三先生が提唱している「しつけの3原則」を紹介します。

- 1 あいさつは自分から先にする
- 2 名前を呼ばれたら「ハイ」と返事をする
- 3 はき物をそろえる、椅子は入れる

こんな簡単なことでもいいのかと思いますが、森信三先生によれば、この3つが人間の生き方の基本であり、この3つが身に付いたら、あとのしつけができるようになるということです。

あいさつは漢字で「挨拶」と書きますが、「挨」も「拶」も迫るという意味です。つまりあいさつというのは、前向きで積極的な心の表れであるということです。また、あいさつは、相手の存在を認め、大切にしていく。さらに進んで敬愛の心の表現ということです。さらに、「自分から」というのも、大切なポイントです。なんとなく、偉くなると部下からあいさつするのが当たり前というような感じもします。でも、本当に偉い人は、「**実るほど頭を垂れる稲穂かな**」の格言どおりです。気付いたら「自分から」先にあいさつする。人間が生きていく上で何よりも大切なことは、このあいさつであるといってもよいのではないのでしょうか。

全校朝礼の話より（1/20）

あいさつの作法

今日から大寒です。暦の上で一番寒い朝の始まりです。そんな寒い朝でも、校門を入るとみなさんの方から「おはようございます」という元気なあいさつの声が響くと、寒さも吹き飛ばすような気になります。

しかしながら、みなさんの中には、元気なあいさつを返せない子が時々見受けられます。どうしたのでしょうか。

ところで、なぜ、あいさつをするのでしょうか。

あいさつができる→人とのかかわりが楽しくなる→明るく、楽しい気持ちになる→心が安定してさわやかな気分になって→授業に集中できる→授業をがんばっているとみんなから認められる→自分が好きになる→そして、前向きに生きる力がわいてくるなど、あいさつができる子は、どんどんプラス面が出てきて、前向きにがんばる力がわいてきます。そして、人と人が心を通わすことができるようになるのです。

あいさつがとてもしょうずな人も、もちろんたくさんいます。この間、地域の方が、「桜小の子に道で出会うと、『おはようございます』とあいさつをしてくれるんですよ。それが何よりもうれしくて、幸せな気分になるんですよ。」と、うれしそうにお話ししてくれました。地域の方に出会っても、進んであいさつができることは、とてもしょうずなことです。その人を幸せにしてしまうすごい力を持っています。

しかし、反対に朝、旗当番で立っていてくださるPTAの方の前を、うつむいたまま通り過ぎてしまう子も残念ながらいるようです。

さて、みなさんは、「**あいさつの作法**」をおうちの方から教えていただいていますか。**あいさつは、年下の者から先に言うのがマナーです。大人に出会ったときに、みなさんが、自分から先にあいさつをするのが正しい作法です。まあ、そうであっても、どちらからあいさつしてもいいと思います。桜小では、「あいさつは、人より先に自分から、大きな声で」を合い言葉にしています。**

私は、みなさんの姿が見えると、すぐに「おはようございます」とあいさつをしてきました。しかし、先ほども言ったように、はっきり聞こえる声であいさつを返してくれない子がいるのです。寂しい気持ちになります。その子は、あいさつをしているつもりなのかもしれませんが、**相手に気持ちよく伝わる心のこもったあいさつでなければ意味がありません。**

これからは、相手に気持ちが伝わるような大きな声で、自分から先にあいさつをしてください。